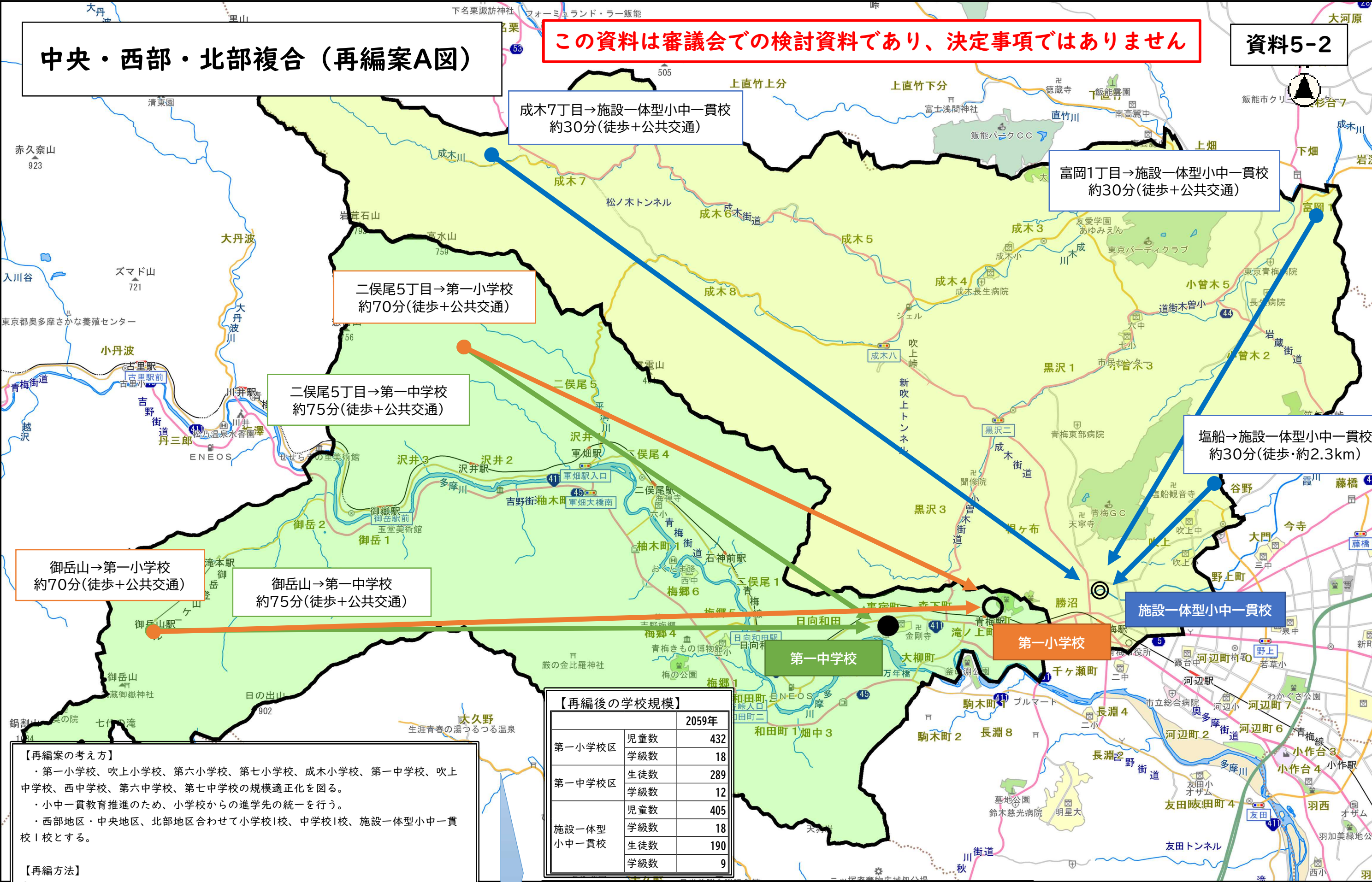


中央・西部・北部複合（再編案A図）

この資料は審議会での検討資料であり、決定事項ではありません

資料5-2



御岳山→第一小学校
約70分(徒歩+公共交通)

御岳山→第一中学校
約75分(徒歩+公共交通)

二俣尾5丁目→第一中学校
約75分(徒歩+公共交通)

二俣尾5丁目→第一小学校
約70分(徒歩+公共交通)

成木7丁目→施設一体型小中一貫校
約30分(徒歩+公共交通)

富岡1丁目→施設一体型小中一貫校
約30分(徒歩+公共交通)

塩船→施設一体型小中一貫校
約30分(徒歩・約2.3km)

【再編後の学校規模】		
		2059年
第一小学校区	児童数	432
	学級数	18
第一中学校区	生徒数	289
	学級数	12
施設一体型 小中一貫校	児童数	405
	学級数	18
	生徒数	190
	学級数	9

- 【再編案の考え方】
- ・第一小学校、吹上小学校、第六小学校、第七小学校、成木小学校、第一中学校、吹上中学校、西中学校、第六中学校、第七中学校の規模適正化を図る。
 - ・小中一貫教育推進のため、小学校からの進学先の統一を行う。
 - ・西部地区・中央地区、北部地区合わせて小学校1校、中学校1校、施設一体型小中一貫校1校とする。
- 【再編方法】
- ① 第五小学校、第六小学校を第一小学校へ、西中学校を第一中学校へ再編する。（2036年までに）
 - ・第一小学校と第一中学校を施設分離型小中一貫校とする。
 - ② 吹上小学校、第七小学校、成木小学校、吹上中学校、第六中学校および第七中学校を再編し、第四小学校の位置に施設一体型小中一貫校を設置する。（2040年までに）
 - ・現在、霞台中学校へ進学する第四小学校区を施設一体型小中一貫校へ変更する。

【再編における効果】			
項目	適正規模	適正配置	小中一貫教育
効果	◎	×	○
内容	2059年まで望ましい規模を維持できる	御岳山等、一部地域にて通学時間が長時間となる。	施設一体型小中一貫校1校、施設分離型小中一貫校1校となる。

※色付きゾーンは小学校区を、黒枠は中学校区を表す。